



小中学校で水利用について実態調査を実施

任意団体 応用地質研究会と素汚染研究グループ

バングラデシュの水供給困難地域における給水施設の持続的利用のための環境教育及び維持管理技術支援

一般助成

1年目

実践

活動対象地域数 19村

水利用啓発セミナーに参加する活動対象地域の人数

1,804人

活動の全体目標に対する達成度

35%

課題

バングラデシュの地下水ヒ素汚染・塩水化地域で住民運営による給水施設の持続的利用促進と教育現場の実態調査を実施し、子ども達の水利用に関する理解度や意識の向上を目指す。

活動内容

- 活動1:教育現場の実態調査及び学校関係者の協力を得て、水利用啓発セミナーを実施した。
- 活動2:5給水施設の住民に対して、利用者組合の活動支援を実施。昨年度修繕した8給水施設についてモニタリングを実施。地元NGOスタッフによる報告会を日本にて実施した。



学校での水利用啓発セミナー

今後の課題

活動1:1)学校での環境教育プログラムと教材を発達段階に応じて作成し、水利用・環境教育を小中学校に広く普及する。2)児童生徒が学校近くの給水施設を見学して学び、水利用者組合の活動と連携をはかる。

成果と工夫したポイント



成果

- ・児童生徒はおおよそ60%、教師、ユニオン関係者は80～90%が理解し意識が向上した。
- ・5施設を修繕し、一施設5～7人の利用者組合が結成された。

工夫

活動1:実態調査の結果を行政・水供給・教育関係者と共有し意見交換を行い学校の啓発セミナーに反映した。